

震災での  
教訓を  
活かして

# 3.11から10年。今なお続く地震への備え

3月11日で東日本大震災の発生から10年が経過します。  
この震災は、市内でも公共施設や道路に破損や亀裂などの多くの被害をもたらしました。  
今なお余震が続いており、今後も地震はいつどこで起こるかわかりません。  
そこで特集2では、東日本大震災以降の市の取り組みや自宅や地域での防災・減災対策を紹介します。

図 704-0065地域防災課

## 3.11当時の市内の被害状況



①大きく亀裂が入った塩浜護岸。②電車が止まり多くの人が集まる市内駅の様子(市川よみうり新聞社提供)。③校舎と敷地の間に段差ができてしまった小学校。④断水が発生した地区に給水車が到着し、給水を待つ住民。⑤液状化により土砂が噴出し通行が困難になった道路。⑥ロッカーや家具などが倒れ、中のもものが散乱している様子。

## まちはどのように変わったのか

2011年3月11日から現在に至るまで  
多くの地震が全国で起きており、その課題などを踏まえて、  
本市ではさまざまな防災対策を進めています。

### 公共施設の耐震化

避難所となる小・中学校及び公民館は、耐震補強の工事が完了し、耐震性を有する建物になっています。



▲工事後の富美浜小学校

### 帰宅困難者対策

市内各駅と連携し訓練を行っている他、帰宅困難者の一時待機スペースの確保、支援物資の整備を進めています。



▲訓練の様子

### 情報発信の強化

防災行政無線、メール情報配信サービス、SNS、LINE、市公式Webサイトの他、避難情報を自宅の電話やFAXで受け取れる「電話等一斉配信サービス」で避難情報を発信しています。また、防災行政無線テレホンサービス(☎0180-994-889)では防災行政無線で放送した内容を確認できます。



▲詳しくはこちら

### 住宅などの安全対策

住宅の耐震診断や改修工事、危険ブロック塀の除去、感震ブレーカーや家具転倒防止器具など取り付け費用を一部助成しています。また、市内の危険ながけについては、整備や費用の一部を補助しています。



### 女性の視点を反映

市女性職員による「BJ☆プロジェクト(防災女性プロジェクト)」を発足させ、女性の視点から、避難所施設の改善や日頃の備えについてパンフレットや啓発動画を作成し活動しています。



▲災害用トイレを検証するBJ☆プロジェクトのメンバー

### 避難所環境の向上

停電対策としてガス発電機や蓄電池を整備しています。また、プライバシーの確保やコロナ禍での感染症対策として、各避難所にプライバシーテントや消毒液、マスク、非接触型体温計などの衛生用品を配備しています。



▲テントを活用した避難所のイメージ

## 自分を、家族を、地域を守るために

### 自分、家族のための備え

普段何気なく生活している自宅を「もし地震が起こったら」という視点で見直し、自分や家族にとって何が必要なのか考え、備えましょう。備蓄品は消費期限や使い方なども併せて確認しましょう。

#### 食料・日用品の備蓄

アレルギーなどを確認し、自分や家族に合った食料・日用品を備蓄しましょう。

##### 食料3日分(可能なら7日分)

- 飲料水(ひとり1日3ℓ)
- 長期保存可能な食品など

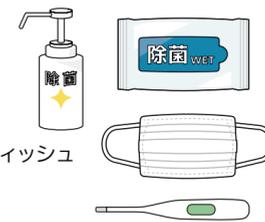
##### 日用品

- 懐中電灯・予備電池
- 携帯ラジオ
- 救急箱・常備薬
- トイレ用ペーパー
- 眼鏡、コンタクトレンズの予備
- 簡易トイレ
- 非常用バッテリー
- カセットコンロ(ガスボンベ)など



##### 感染対策

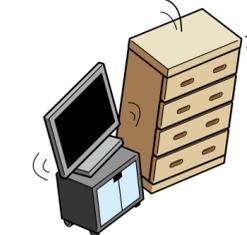
- マスク
- 消毒液
- 体温計
- ウェットティッシュ



#### 自宅の安全確認

屋外への避難経路を確保し、ケガや火災などの二次災害を防ぎましょう。

- テレビ・家具類に転倒防止措置
- 出入り口や通路に物を置かない
- 窓ガラスやガラス戸に飛散防止対策
- 感震ブレーカーの設置



##### 建物の安全性を確認

- 自宅は昭和56年以降の新しい基準で建設されたもの
- ブロック塀の高さは地盤から2.2m以下
- 自宅の基礎がコンクリート



→発災後、倒壊の危険性がないなど自宅の安全が確認できたら在宅避難も可能です。

#### 連絡手段と情報収集

家族や知人との連絡手段や正しい情報の入手方法を確認しましょう。

##### 家族、知人の連絡手段

- 連絡先の共有
- 自宅、職場、学校など離れた場所で被災した時の集合場所
- 災害用伝言ダイヤル「171」や公衆電話の使い方



##### 正しい情報の入手

- 市からの情報を受け取る(詳細は4面2次元コード参照)

##### 減災マップや防災カルテを確認

- 減災マップ  
本市を4地区に分け、地震被害想定、避難所、がけ崩れ警戒区域、地盤の液状化危険度など掲載
- 防災カルテ  
小学校区ごとに地理的情報、災害リスクの評価、防災上の課題、地区内の防災関連施設や、各種災害による被害想定など掲載



防災豆知識や災害情報を集める手段、避難生活に必要なポイントなどをBJ☆プロジェクトのメンバーが動画や小冊子で紹介しています。市公式Webサイト(右記2次元コード参照)から確認できます。



### 助け合う地域づくり

被害を最小限にするためには、地域での取り組みが必要不可欠です。市内には、主に2つの組織があり、日頃から防災・減災活動に取り組んでいます。

#### 小学校区防災拠点協議会

- 【構成】** 自治会やPTA、民生委員など。35校設立(令和3年2月末現在)
- 【災害時】** 避難所となる小学校において避難所運営の支援
- 【平常時】** 避難所運営の検討、開設訓練の実施

#### 自主防災組織

- 【構成】** 自治会やマンションごと。223団体結成(令和3年2月末現在)
- 【災害時】** 初期消火や救出・救護、避難誘導など
- 【平常時】** 資器材の整備や防災訓練実施

東日本大震災における被害写真、市の被害想定マップや備蓄品を展示しています。  
展示場所: 第1庁舎1階ファンクションルーム 展示期間: 3月12日(金)まで 平日 午前10時~午後4時